



文子

○川風に小さき椅子出し夕涼み
娘の糠床茄子色よく漬りけり
切戻す茄子の花芽のつき初む

農子

○片陰に寄りて明日の打合せ
炎暑中横切る猫やアスファルト
茄子の紺一人夕餉の時流る

初江

○ちぎり絵の暑中見舞いは出せぬまま
猫もらう一緒にキュウリ・ナス・トマト
炎天へ出る気萎えさすピーポーピー

丞子

○子等の声とび散らかして水鉄砲
水槽を今朝脱出の雨蛙
「よさこい」の踊りの練習大暑かな

瑞枝

○回送のバスばかり来る暑さかな
○井戸端のポリポリ齧る胡瓜かな
原色の看板並ぶ暑さかな

郁子(土)

○ぬかづけの紫紺のなすや母の色
○流れ落つダム湖の水や青嵐
○白靴や陸奥への旅をふと思ひ

千代

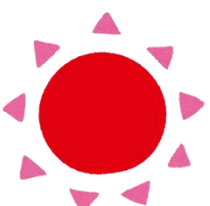
○さざ波に夏雲の影鳥の影
○てのひらは魔法の道具胡瓜もみ
茄子の尻つかみゆるませ詰め放題

郁子(岡)

○まな板のやさしき音よ瓜刻む
夏が来て今年も賑わう土曜市
茄子の葉レースカーテンそよぐ風

利恵

梅雨明け十五分間の孫の顔
母育てし庭に咲く百日紅
掃除後に友の差し入れ初スイカ



味元 昭次 作品

空色の鉢巻炎暑の陸上部
風くれば風のままなる茄子の花
胡瓜一本提げて隣家の婆来たる

★次回市民句会

【開催日時】

令和六年九月二十五日(水)

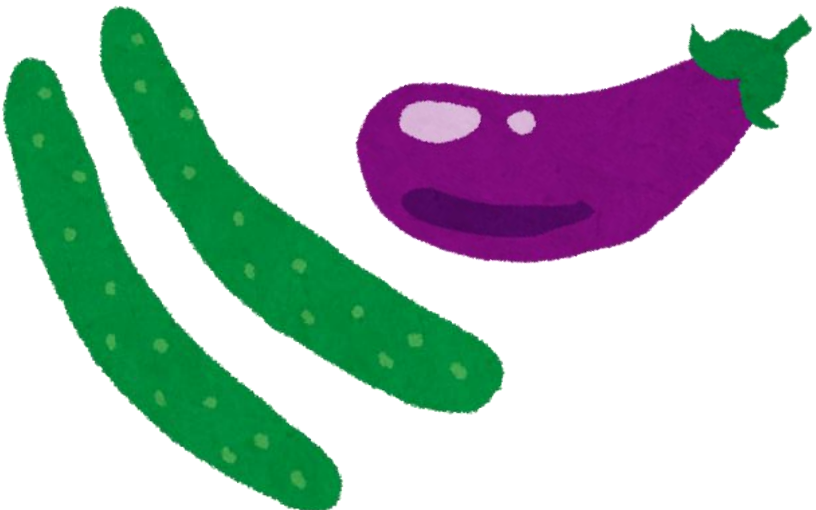
午後一時十五分〜午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

どなたでも自由にご参加いただけます

酔花



僕の耳に住所変更猫のニャー
トゲトゲの胡瓜の先に100ワット
包帯の小指のはなし外は梅雨

えり

オアシスの二瘤駱駝瓜売れず
室戸岬西山台地茄子の色
五穀米路地の野菜や暑気払い

志津子

○母の忌や蚊取線香くゆらして
○黙々と一人の為の胡瓜揉
もはやもう半分でよしかき氷

富子

蛻ぬけからや何を見たのか聞かせてよ
暑あつに勝つ森山良子のHEY・JUDE
夫の忌あの世へ繋ぐ茄子胡瓜